

新大関若羽黒が初優勝
恩人伊之助の軍配受ける

朝夕は今場所も初日から休場。6日目栃若の両横綱に相次いで土が付き、8日目に琴ヶ濱が鶴ヶ嶺に寄り切られると、この時点で新大関若羽黒が単独先頭に立つ。若羽黒は11日目に栃光に押し出され土が付き、さらに13日目栃錦に敗れて、この時点で栃若と若羽黒、富士錦が2敗で並んだが、14日目若羽黒が若乃花を破れば栃錦も結びで土、千秋楽に富士錦敗れ若羽黒が琴ヶ濱に勝って新大関初優勝。角界入りの恩人であり、今場所行司停年制導入で角界を去る「ヒゲの伊之助」の軍配を受けての優勝決定は大きな話題となった。

優勝Ⅱ大関若羽黒(13勝2敗)十両Ⅱ大鵬(13勝2敗)幕下Ⅱ荒岐山(新岐山)(8戦全勝)三段目Ⅱ花光(8戦全勝)序二段Ⅱ前昇(8戦全勝)序ノ口Ⅱ燦洋(7勝1敗)殊勲Ⅱ関脇安念山③/敢闘Ⅱ前11富士錦②/技能Ⅱ前2若ノ海

三役力士出身地

記録で見る 100年の大相撲 番外編 ※本編はP251から

出身地	横綱	大関	関脇	小結	総計
北海道	8	6	11	5	30
青森県	6	5	9	9	29
東京都	4	3	4	7	18
モンゴル	6	1	4	4	15
福岡県		2	3	9	14
秋田県	1	2	6	4	13
鹿児島県	2	2	5	3	12
兵庫県		4	3	4	11
大阪府		2	4	5	11
長崎県	1	1	5	4	11
茨城県	2	4	3	1	10
千葉県		2	5	3	10
熊本県		2	2	4	8
新潟県	1	1	2	4	8
大分県	1	2	2	3	8
愛知県	1	1	3	2	7
高知県	1	1	4		6
神奈川県	1	1	1	3	6
石川県	2	1	2	1	6
福島県			6		6
岩手県	1		1	3	5
香川県		1	3	1	5
宮城県			3	1	4
佐賀県		2	1	1	4
埼玉県			3	1	4
三重県	2	1	1		4
奈良県			3	1	4
アメリカ	2	1	1		4
岡山県	1		2		3
群馬県			2	1	3
広島県	1		2		3
山形県	1		2		3
山梨県			1	2	3
富山県		1	2		3
和歌山県			1	2	3
ジョージア		1		2	3

出身地	横綱	大関	関脇	小結	総計
ブルガリア		1	1		2
ロシア			1	1	2
愛媛県	1		1		2
宮崎県			1	1	2
山口県		1		1	2
滋賀県			1	1	2
長野県		1	1		2
栃木県			2		2
エストニア		1			1
ブラジル			1		1
ウクライナ				1	1
岐阜県			1		1
静岡県			1		1
鳥取県	1				1
島根県			1		1
福井県				1	1
合計	47	54	124	96	321

大正15年1月から令和7年9月までの間、三役(横綱、大関、関脇、小結)に1場所以上在位したのは321人。

国内最多は北海道の30人で、青森県の29人が続く。最少は岐阜県、静岡県、鳥取県、島根県、福井県の各1人だが、京都府、徳島県、沖縄県はいずれも三役が生まれていない。

海外はモンゴルの15人が最多で、アメリカの4人がこれに次ぐ。海外出身の三役は8か国で29人となる。

なお、出身地は番付上の記載を原則とし、幕内在位中に出身地を変更した、岩平改め若葉山(福岡県から埼玉県に)、横綱若乃花(初代)こと若ノ花(北海道から青森県に)、米川改め朝潮(兵庫県から鹿児島県に)、若の富士(新潟県から東京都に)、春日富士(神奈川県から宮城県に)、琴龍(千葉県から兵庫県に)の6人については後者を出身地として計算している。